

(知的障害)

各教科等チェックシート

学部・学年	氏名
小学部〇年	〇〇 〇〇

小学部・小学校版

教科等	内容	知的障害がある			知的障害がない			備考	
		小学部(段階)						具体的な指導内容	指導場面 教科・単元等
		1	2	3	1	2	3		
生活 (特別支援学校) 生活科 	ア 基本的な生活習慣 イ 安全 ウ 日課・予定 エ 遊び オ 人との関わり カ 役割 キ 手伝い・仕事 ク 金銭の扱い ケ きまり コ 社会の仕組みと公共施設 サ 生命・自然 シ ものの仕組みと働き		●	●				の確認 整理 活動 いさつ の関わり方 ○公園への 校外学習 買い物学習	日常生活の指導 あそび 個別の課題学習 支援ルームでの学 習(発音) 生活
国語 ※(特)2段階 同観点 国語 	知識及び技能 A 聞くこと・話すこと B 書くこと C 読むこと			●				ひらがな 人との関わり方 絵本の読み聞 かせ	個別の課題学習 国語/算数
算数 算数 	A 数と計算 B 図形 C 測定		●	●				20までの数唱 10までの数量 マッチング 色の弁別	国語/算数 個別の課題学習 支援ルームでの学 習(発音) あそび
音楽 音楽 	A 表現 B 鑑賞		●	●				校歌の練習・行 事の歌・季節の 歌・ダンス	音楽 あそび 生活単元学習
図画工作 図工 	A 表現 B 鑑賞		●	●				教室掲示づくり 季節や行事に 関する作品作り	図工 個別の課題学習
家庭 (小学校5・6年)	A 家族・家庭生活 B 衣食住の生活 C 消費生活・環境								
体育 体育 	A 体づくり運動遊び(小2と3段階 体づく り運動) B 器械・器具を使つての遊び(2・3段階 器械・器具を使つての運動) C 走・跳の運動遊び(2・3段階 走・跳 の運動) D 水遊び(2・3段階 水の中の運動) E ボール遊び(2・3段階 ボールを使っ た運動やゲーム、小学校 ゲーム) F 表現遊び(2・3段階 表現運動、小学 校 表現リズム遊び) G 保健 *小学校 項目なし		●	●				基礎運動 リズム運動 サーキット運動 ダンス	体育 あそび
外国語 外国 	知識及び技能 思考力・判断力								
外国語活動 ※(1)									
特別の教科道徳 ※(2)									
総合的な学習の時間									
特別活動									

記載者から
 生活科の内容を改
 めて確認すること
 で、日常生活の指
 導や生活単元学
 習の目標につい
 て見直すことが
 できた。

記載者から
 アイコンをクリ
 ックするだけで、
 教科の目標及び
 内容にすぐにた
 どり着くことが
 できたので、内
 容ごとに段階を
 確認することが
 できた。

記載者から
 各教科等チェックシートを作成するとき、全ての教科について各段階を確認しながらチェックした。進めていく中で、この段階で合っているのかが不安になり、別の教員に見てもらった。複数の教員で確認することで、自信を持って作成することができると感じた。
 具体的な指導内容については、本校の年間指計画を基に記入した。

※(1) 「外国語活動」：知的特別支援学校の小学部において、必要に応じて設けることができる。
 ※(2) 「特別の教科道徳」：小学校に準ずる(原則同一、他配慮事項あり。)

(知的障害)

自立活動フローシート

学部・学年 小学部〇年 氏名 ○○ ○○

発達の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさについて情報収集

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムは安定している。 野菜が苦手であまり食べることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな活動ができないと、怒ったり泣いたりしてアピールすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 色々な教師と関わることができる。 友達と協力して活動することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 動作の模倣をすることができる。 運動やダンスが好きで、自分から進んで行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発声や指さし、サイン等で自分の要求を伝えることができる。 言葉だけの指示で活動を理解することができる。 発音が不明瞭で、相手に自分の気持ちが伝わりにくい。

いくつかの指導目標の中で優先する目標として

3年後にめざす姿

○自分の思い通りにならなくても、我慢することができる。
○発声やサインなどのコミュニケーション手段を獲得し、相手に気持ちや考えを伝えることができる。

長期目標(年間)

○自分のやりたいことを発声やサインで相手に伝えることができる。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定した項目	①生活のリズムや生活習慣の形成	①情緒の安定	①他者とのかかわりの基礎	①保有する感覚の活用	①姿勢と運動・動作の基本技能	①コミュニケーションの基礎的能力
	②病気の状態の理解と生活管理	②状況の理解と変化への対応	②他者の意図や感情の理解	②感覚や認知の特性への対応	②姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用	②言語の受容と表出
	③身体各部の状態の理解と養護	③障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	③自己の理解と行動の調整	③感覚の補助及び代行手段の活用	③日常生活に必要な基本動作	③言語の形成と活用
	④障害の特性の理解と生活環境の調整		④集団への参加の基礎	④感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握	④身体の移動能力	④コミュニケーション手段の選択と活用
	⑤健康状態の維持・改善			⑤認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	⑤作業に必要な動作と習慣の定着	⑤状況に応じたコミュニケーション

コピーして利用を

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容
<ul style="list-style-type: none"> 学習場面で順番に学習に取り組むことで、見通しを持てるようにする。 友達や教師との関わりを通して、相手との関わり方を学ぶ。 友達や教師に伝えたいことをサインや言葉で伝える。

授業者から
具体的な指導内容を考えるまではスムーズに記入できたが、指導場面を記入する時に迷った。実際に担任(記載者)が担当していない授業について、年間指導計画だけを見て、記載することは難しいと感じた。

指導場面(各教科・単元名)	教科等	単元名等	教科等	単元名等	教科等	単元名等
	個別の課題学習	発声練習をしよう	個別の課題学習	文字や数字に触れよう	日常生活	朝の会(一日の流れを知ろう)
国語/算数		生活	買い物学習	学校教育全体で取り組む		

この内容で授業に取り組んだ。

日 時 令和元年〇〇月〇〇日
 場 所 小学部〇年
 指導者 〇〇 〇〇

1 題材名 「文字」

2 題材観

(1)

授業者から

今までは、発音担当による抽出して学習している内容を、自立活動の個別の課題学習では取り上げてこなかった。しかし、自立活動フローシートを使い、改めて将来の姿をイメージしたことで、発音担当と学んでいる指導内容を自立活動の個別の時間でも行うことにした。自立活動でも取り組むことで、教師や友達に自分の気持ちが伝えられるコミュニケーション能力や自分から学習に取り組む力をさらに身に付けてほしいと思い、本単元を設定した。

(2)

(省略)

始めに、学習の順番を教師と一緒に確認する。順番を確認してから取り組むことで、見通しをもって取り組めるようになってほしいと考えた。見通しをもち取り組めることで、自立活動の要素である心理的な安定もねらっている。発声の学習では、あいうえお体操や舌の動かし方の確認、ストローと羽毛を用いた息吹きなどに取り組む。これは発音担当による抽出して学習している内容でもあり、個別の課題学習でも毎回取り組み、習慣になることをねらっている。また、発音の学習を積み重ね、友達や教師との関わりの中で自分の気持ちを伝えられることで、自己有用感を高めたり自立活動の要素であるコミュニケーション能力を高めたりすることもねらっている。

平仮名の学習では、平仮名の書き順に気を付けながら自分の名前を書く学習に取り組む。まずは自分の名前や好きな文字から取り組むことで、平仮名に興味関心を引くことができると考えた。また、五十音や書き順の学習につながると考え、この活動を通して、少しずつ名前やものの名前を構成している平仮名を意識できるようにする。

(3)

授業者から

自立活動の学習指導案を各教科の学習指導案に沿って整えていったが、単元観や指導観、単元の目標、本時の目標等、書きづらさを感じた。書き始めると、自立活動フローシートに記載した内容を、児童観や題材観に記載していることに気が付いた。自立活動の学習指導案はどのような書式が良いのかを考えるきっかけになった。

発声の学習では、母音の学習としてあいうえおの学習に取り組む。正しい口の形を模倣して発声することができるようにする。また、体もあいうえおの動きを動かすことで、より口の動きを意識できるようにする。カードを自分で選んだり、順番を伝えたりしながら取り組むことで、母音の順番を意識できるようになってほしい。舌の動かし方や息の使い方も合わせて学習することで、きれいな発声ができるようになってほしい。そして、自分の気持ちを教師や友達に伝えられることで「自分の気持ちが伝えられた」と感じ、自己有用感を高めたり、コミュニケーション能力も高めたりすることにつなげていきたい。

平仮名の学習では、始めに自分の名前のなぞり書きに取り組む。児童が書き順に注目できるように一画目が赤、二画目が青など色分けされたカードで学習する。五十音のあ段からわ段までのの中から自分で選ぶ形式にし、児童が言葉や指差しなどで教師に伝える。活動を通して、教師とやりとりする力をつけたり、書くことの楽しさを感じたりしてほしい。また、児童が書きやすいように大きめのシートを使用することで、手元に注目する力もつけてほしい。

数量の学習では、児童が自分から手を伸ばして活動に取り組むことができるように、つかみやす